

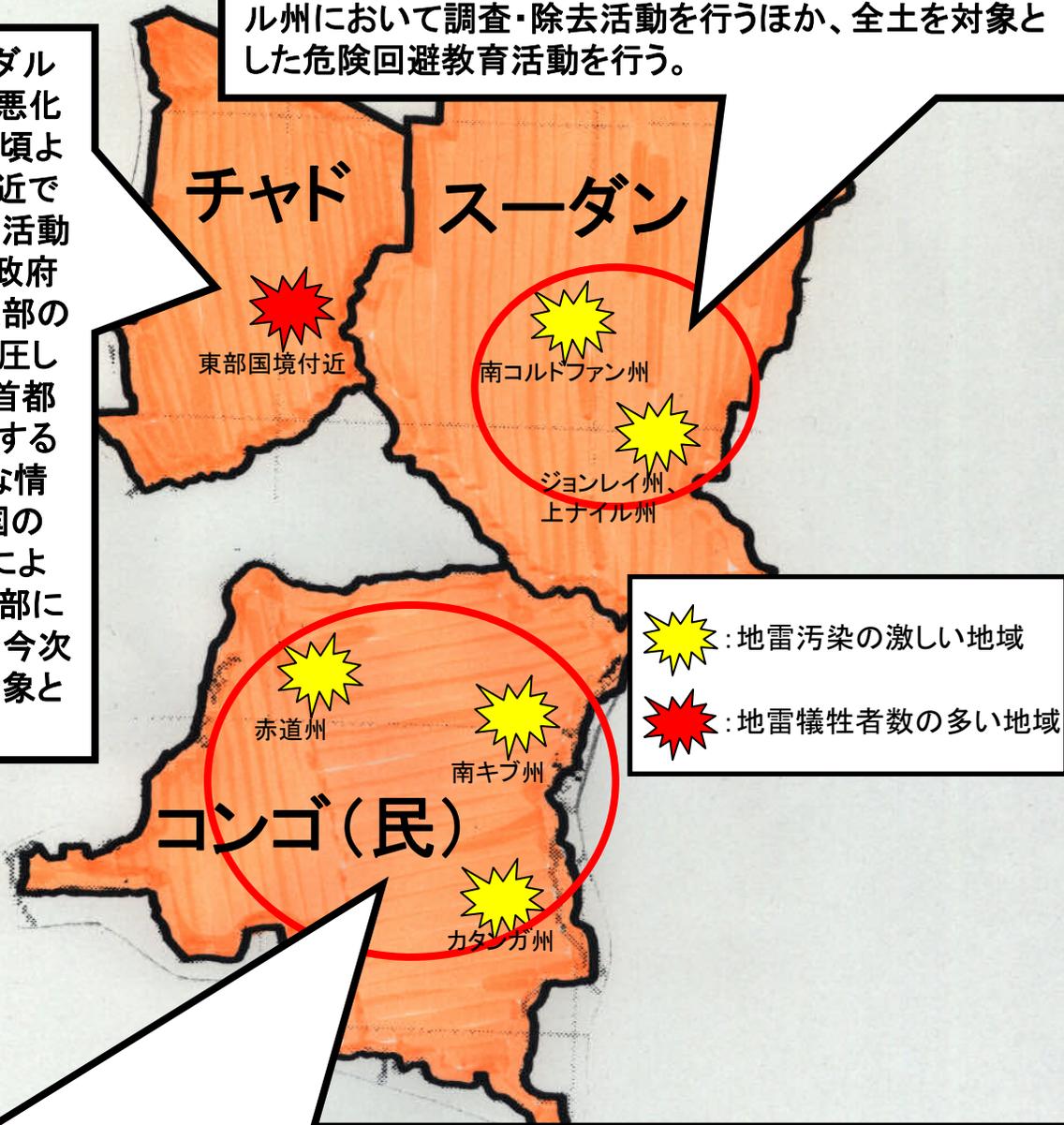
アフリカ中、東地域一地域情勢と地雷問題



80年代初頭より05年の和平協定(CPA)署名まで、20年余間南北の内戦が継続。現在もCPAの履行は大幅に遅れている。内戦の影響は激しく、激戦地を中心に地雷汚染地域が広がっているが、対策は進んでいない。

今次支援では、南コルドファン州、ジョンレイ州、上ナイル州において調査・除去活動を行うほか、全土を対象とした危険回避教育活動を行う。

民族対立やダルフール情勢の悪化に伴い、05年頃より東部国境付近で反政府勢力の活動が活発化。反政府武装勢力は東部の主要都市を制圧したほか、一時首都近郊まで侵攻するなど、不安定な情勢が続く。同国の地雷・不発弾による犠牲者は東部に集中しており、今次除去活動の対象とする。



90年代の政権交代により国内の民族対立が激化し、ルワンダ及びウガンダをはじめとする隣国の介入で大規模な紛争に発展した。外国軍の撤退以後も、国内の民族対立は続いている。

内戦の影響によりほぼ全国に地雷汚染地域が広がっているが、今次支援では、特に汚染の激しい北西部の赤道州、東部の南キブ州、カタンガ州等を対象とする。